

0から始めるiアプリ(1)

iアプリ作りはコツさえつかめば難しくありません。

プログラムの基本と、iアプリ特有の作法を覚えるだけで楽しくプログラミングでき、それらを例えば友達の携帯電話等と一緒に遊べるのです。こんな楽しいことがパソコンさえあれば、無料でできるのです。こんな素敵なことはないと思いませんか。

さあ、あなたもiアプリプログラミングのドアを開けましょう！

1. iアプリ作りの道具をそろえる

(1) iアプリって何？

iアプリとはNTTドコモ社が2001年2月に発売した503iという携帯電話で動くソフトウェアのことを指します。もう少し詳しく言うと、Javaというプログラミング言語を使ってかかれたプログラムのことです。

ただし、本来のJavaというプログラム言語はアメリカのネットワークの会社がつくった言語で、すでにインターネットのホームページなどでの多く利用されています。

それをNTTドコモ社独自の機能を付け加えてプログラミングされているソフトウェアがiアプリです。

ですから、以前からJava言語を学習していたプログラマにとってはとてもわかりやすい環境で、現在でもすでに多数のiアプリが開発、発表されています。

また、現在では、パソコン上でiアプリを作成し、携帯電話がなくともiアプリを実行して動作確認するためのソフトウェアも無償で提供されているのです。

iアプリは単独で動くプログラムなので、iモードでアクセスしたホームページ上で動くプログラムとは違い通信費が抑えられるメリットもあります。ダウンロードさえすれば通信をせずとも動作するのです(iアプリに通信機能を持たせることももちろん可能です)。

ゲームや、株式のリアルタイム情報、カラオケなどその用途はますます広がっています。今後もメモリや携帯電話の性能が上がってくることにより高品質なソフトウェアが開発され、私たちに楽しく、便利な環境を提供してくれることでしょう。

(2) 必要なもの

① JDK1.3

1995年に米国SunMicrosystems社が発表したプログラミング言語であるJavaの開発者用ソフトウェア群です。まず、これがパソコンにインストールされていないと、Java言語のプログラミング自体ができません。

【参照URL】<http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/download-windows.html>

② Java(tm) 2 Platform, Micro Edition, Wireless SDK for the DoJa APIs

NTTドコモ社が発表した、503iシリーズ独自の機能をJavaに組み込むためのプログラム群のことです。これと上記のJDK1.3をパソコンにインストールしておけば、とりあえずはiアプリが作れます(以下DoJaと記します)。

【参照URL】<http://www.nttdocomo.co.jp/i/java.html>

③ テキストエディタ

Windowsにはメモ帳というテキストエディタが標準でついていますが、このように文字のみを入力することに特化した簡易ワープロソフトを指します。プログラムを組む際には必ず必要とします。



④ i-JADE Lite

iアプリを作る際には機種ごとの動作チェックをしなければなりません。②のDoJaだけでも動作確認はできるのですが、残念ながら音楽の再生は2001年4月23日現在では完全には対応していません。ですので、ゼンテック社の開発した模擬動作環境を使います。このように、あるコンピュータの動作を真似てくれるソフトのことをエミュレータといいます。

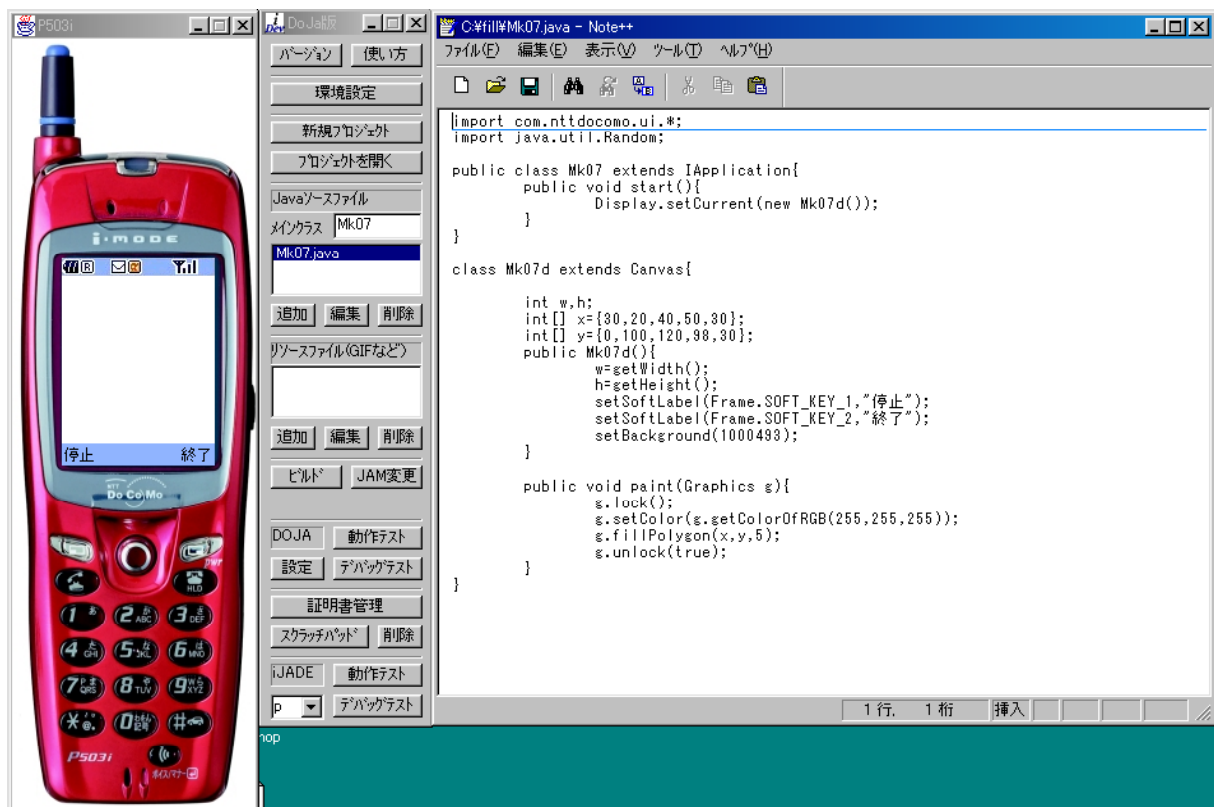
【参照URL】<http://www.zentek.com/i-JADE/index.html>

⑤ iアプリ開発 Tool ver0.7

iアプリを作って公開し、友達にダウンロードして遊んでもらうためには、ADFと呼ばれる設定ファイルとそのためのホームページファイルをサーバーにiアプリといっしょにアップロードしなくてはなりません。それらはとても形式的もので書式もある程度決まっています。そこで、その2つを自動的に作成してくれ、動作チェックなども自動的にしてくれるソフトを利用するととても便利です。

初心者にとってもわかりやすい使用感に定評があります。

【参照URL】<http://www.asahi-net.or.jp/~tz2s-nsmr/>



⑥ その他

iアプリは画像として、GIF形式とPNG形式を扱えます。しかし、P503iなど256色しか表示できない機種を考えると、現実的にはGIF形式が標準といえましょう。

GIF形式に保存できるグラフィックソフトは現在ではシェアウェアしかありません。

サウンドはiメロディを利用します。

一般的にパソコンではMIDI形式というサウンドファイルが利用されていますが、それをiメロディという形式に変換するソフトウェアが必要になります。

iメロディは着信音と同じファイル形式で、～.MLDという形式になります。

いずれも、「GIF シェアウェア」や「MLD フリーソフト」などで検索すると、インターネット上に公開されているソフトウェアや体験版ソフトを手に入れることができるでしょう。

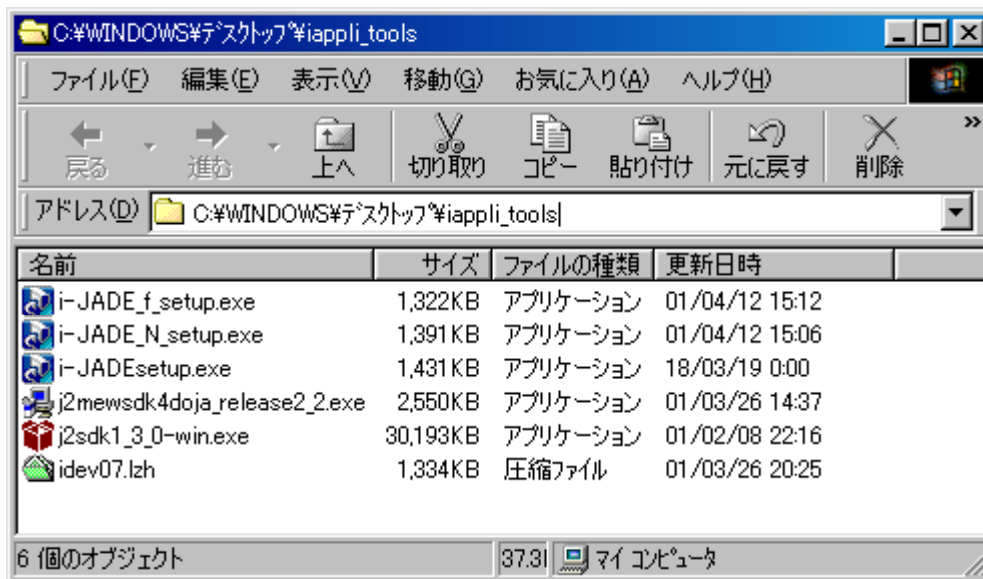
(3) 必要なものを手に入れる

上記の①～⑤のソフトウェアを手に入れるにはホームページからダウンロードしなければなりません。しかし、JDK1.3などは数十メガもあるので、実際には書籍添付CD-ROMに収録されているものを利用した方が現実的でしょう。

以下の書籍には、たいていJDK1.3、i-JADE Liteの2つは収録されているようです。

ただし、DoJaだけは3月24日に発表されたばかりなので、2001年4月23日現在発売の書籍にはまだ収録されていません。

- ① SOFTBANK「月刊Cマガジン5月号」
 - ② ASCII「iモードJavaプログラミング・スタンドアローン編」
 - ③ インプレス「インターネットマガジン4月号」
 - ④ 技術評論社「JAVAPRESS3月号」
 - ⑤ カットシステム「iアプリでケータイが変わる！」
- ・・・その他Javaの解説本



上記のようなファイルが揃えばOKです(解凍ソフトが必要です)
(i-JADEはひとつだけでも結構です。まずはfあたりがあると良いでしょう)

【ワンポイント】環境を整えるには困難がつきまとう!?

筆者はマルチメディア系の教材をよく作る関係でWindowsMEをノートパソコンに入れています。そこではよく動画再生などの際によくマシンが固まります。そのたびに(関連性はあるかどうかわかりませんが)I-JADEが動かなくなったり、他のツールが動かなくなったりしました。

メーリングリスト等で質問しても、MEを使っている人が少なく解決できないことも多かったものでした。

そこで、筆者はiアプリ開発用に、ハードディスクをひとつ購入し、教材をつくるときには本体を開けてハードディスクを入れかえて作業をするようにしました。

そうすることと、あとプログラミングになれてきて無理な処理をさせなくなったところ、解消したようです。

それまでは「え～！さっきまでできていたのに！」や「明日締め切りなのに！！」といった状況が多々ありみなさまにもご迷惑をかけたことかと・・・。

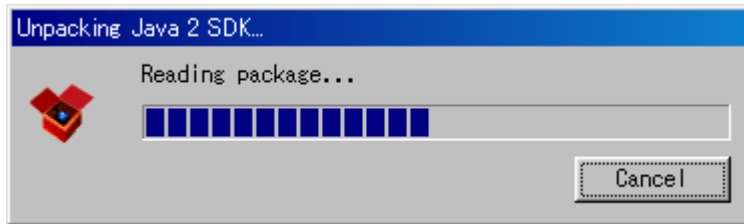
DoJaが発表されてようやく落ち着いてきたように思えます。

しかし、最近Java自体の新しいバージョン特有の記述を知り、あわてましたが・・・。

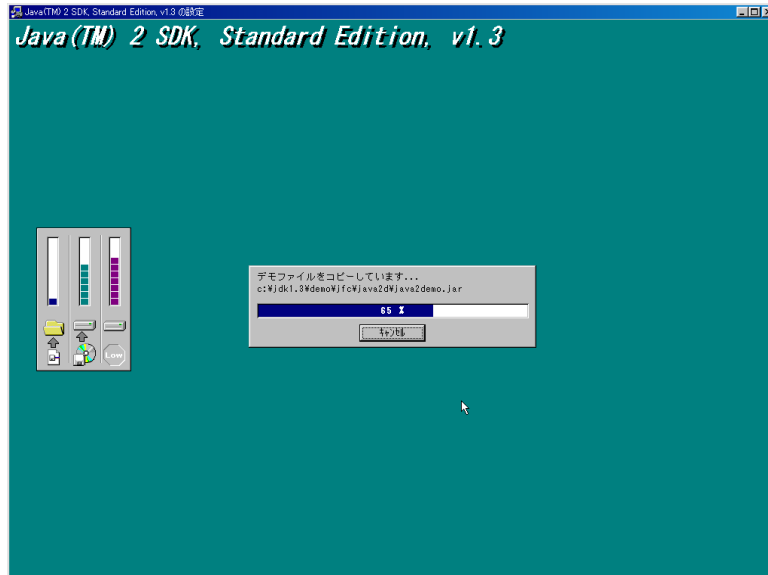
iアプリ作成は改めて、退屈しない楽しいプログラミングだなと実感しました。(^^;

(4) インストール

① j2sdk1_3_0-win.exeをダブルクリックします。



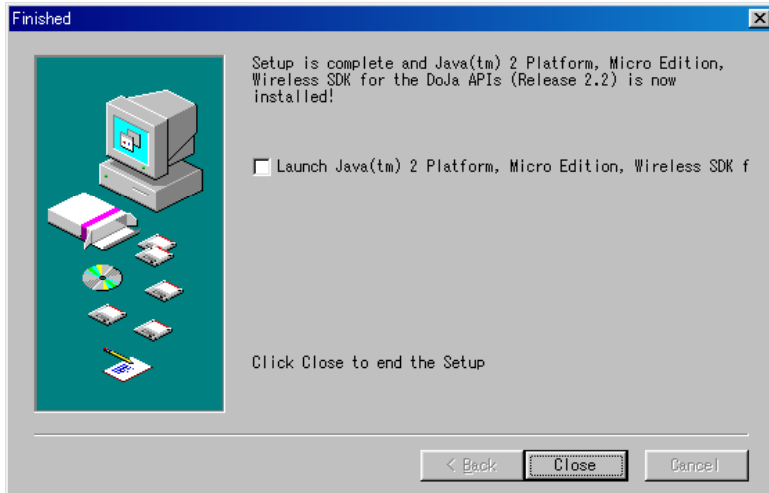
② [次へ] → [はい] → [次へ] → [次へ]とクリックします。



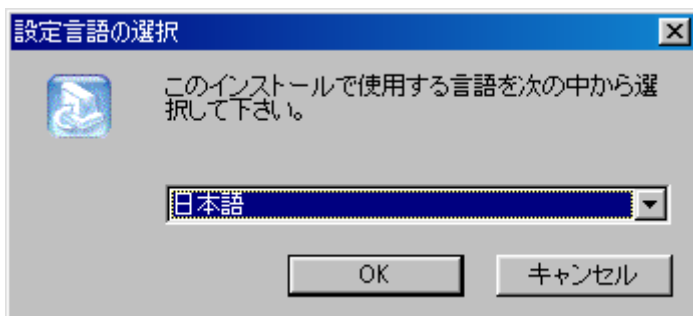
③ [完了]をクリックします。



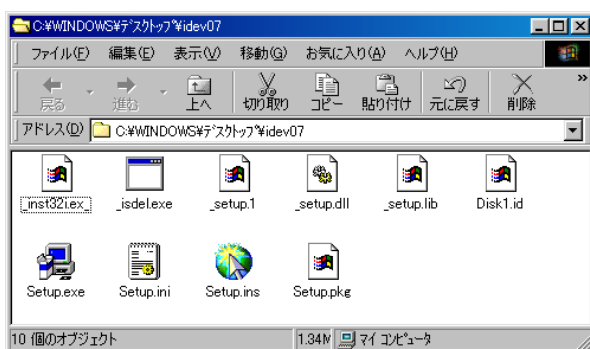
- ④ j2mewsdk4doja_release2_2.exeをダブルクリックします。
 ⑤ [OK]をクリックします。
 ⑥ [next] → [yes] → [next] → [next] → [next]をクリックします。



- ⑦ [close]をクリックします。
 (KToolberを含むフォルダが開きますが、×ボタンをクリックして閉じてしまって結構です)
 ⑧ i-JADEsetup.exeをダブルクリックします。
 ⑨ [OK]をクリックします。



- ⑩ [[はい] → [次へ] → [完了]をクリックします。
 (i-jadeのドキュメントが表示されますが、閉じてしまって結構です)
 ⑪ idev07.lzhを解凍します(解凍ソフトがインストール済みであればダブルクリックで解凍します)



- ⑫ 解凍したフォルダ内の Setup.exeをダブルクリックします。
 ⑬ [次へ] → [次へ] → [終了]をクリックします。
 (iアプリ開発 Tool DoJa版を含むフォルダが開きますが、×ボタンをクリックして閉じて結構です)
 ⑭ iアプリ開発 Tool DoJa版をダブルクリックします。
 (iアプリ開発 Tool DoJa版が起動します)

【ワンポイント】お疲れさまでした

iアプリ開発 Tool DoJa版のアイコンをデスクトップにコピーしておくとう便利です。